

アライグマ専用捕獲器の開発(埼玉県農業技術研究センター)

- 錯誤捕獲を解消するため、アライグマと錯誤して捕獲される野生動物との行動特性の違いを解明
- アライグマだけに作動する「筒式トリガー」と専用捕獲器の開発を(有)栄工業と共同開発
- 現地実証で発生した課題を解決するための改良と開発技術を効果的に活用できるようマニュアルを作成し、HPで公開

取組内容

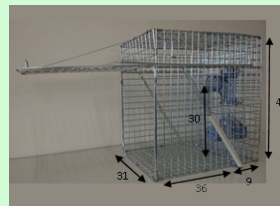
- 内径50mmの塩化ビニール製の筒を使用し、アライグマ、ネコ、タヌキ、アナグマ、ハクビシン、テンの採食行動及び前肢到達位置を調査
- 調査結果に基づき、アライグマ以外の動物が採食行動で到達しなかった位置に、捕獲器の扉と連動する仕掛けを配置し、アライグマ専用の筒式トリガーを開発
- 筒式トリガーの効率的な設置高について調査し、奥行きが短くコンパクトな設計のアライグマ専用捕獲器を(有)栄工業と共同開発



前肢到達位置の測定
(アライグマ)



筒式トリガー



専用捕獲器
(ラクーンキューブ)

成果

- 錯誤捕獲の解消と捕獲従事者の業務負担を軽減
- アライグマを立たせた状態で捕獲するため捕獲器のコンパクト化を実現
- 商品名を「ラクーンキューブ」とし製品化
- 累計販売数442基(令和3年3月末時点)
- 特許申請(平成29年2月)
特許登録(令和3年8月)



アライグマを立たせた
状態で捕獲



製品概要
プラスワンスタイル(株)

※本研究は、委託プロジェクト研究「農林水産分野における気候変動対応のための研究開発」において実施

アライグマ専用捕獲器の開発(埼玉県農業技術研究センター)

背景

- 全国的に増加傾向となっているアライグマの生息数を減少させるためには、増加数以上の捕獲が必要であるが、捕獲数が増加数に追い付いていないのが現状
- アライグマの対策に苦慮している地域では、効率的に捕獲ができ、錯誤捕獲を発生させない専用の捕獲器の開発を期待



捕獲されたアライグマ

課題

- これまでの捕獲器では、ネコ、タヌキ等が誤って捕獲されてしまう錯誤捕獲が発生し、アライグマの捕獲が非効率的
- 錯誤捕獲の発生により、誤って捕獲された動物の放獣、罠の再設置などが業務負担

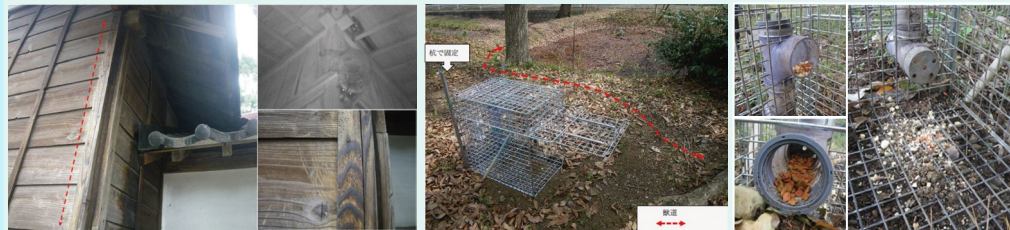
Step1 トリガーの開発 (H28)

- アライグマと錯誤捕獲されるネコ、タヌキ、アナグマ、ハクビシン、テンの行動特性の違いを解明
- アライグマだけに作動する「筒式トリガー」を開発

Step2 捕獲器の開発 (H28)

- 開発した筒式トリガーと動物捕獲器の製造メーカーである(有)栄工業の技術とを組合せ、専用捕獲器を共同開発
- 特許申請(平成29年2月)
- 商品名を「ラクーンキューブ」とし製品化、販売開始

ラクーンキューブ設置マニュアル



アライグマの侵入経路を探る

捕獲器設置の様子

餌の撒き方

「ラクーンキューブ設置マニュアル」アドレス

<https://www.pref.saitama.lg.jp/documents/104427/rchp20210405.pdf>

Step3 現地実証・課題 (H29)

- 捕獲従事者によるモニタリング調査を実施
- 【課題1】捕獲されたアライグマによるトリガーの破損
- 【課題2】利用者からの衛生面、危険性に係る指摘

取組の特色

- 開発した技術を効果的に活用できるよう「ラクーンキューブ設置マニュアル」を作成し、埼玉県農業技術研究センターHPで公開

取組による成果・効果

- 錯誤捕獲が解消されアライグマの選択捕獲が可能に
- アライグマ捕獲従事者の業務負担が軽減
- 期待される効果は、アライグマを効率的に捕獲することによる農作物被害の低減、生活環境被害や生息域拡大の防止

Step3 改良型の開発 (H29)

- トリガーを改良し、破損事例と衛生面、危険性を解消
- 特許追加申請、改良型の販売開始(平成30年2月)
- 特許登録(令和3年8月)